

街頭「町政対話会」の主な日程

町内の街頭 100 カ所で「町政対話会」を開催いたします。任期中は公務最優先ですので、休日と平日の夕刻以降の時間帯を予定しています。場所は、各庁舎周辺や地域の公民館付近等を活用させていただきます。

2 月及び 3 月の主な日程は以下の通りですが、公務の都合によっては予告なく変更になることもあります。

ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

毎週火曜日

17 時 30 分：岩滝庁舎付近

18 時 30 分：野田川庁舎付近

19 時 30 分：旧加悦町役場庁舎付近

毎週水曜日

17 時 45 分：水戸谷交差点付近

18 時 30 分：ウィル付近

19 時 30 分：アオキ男山店付近

＼ 公式SNSアカウントを開設しました ／



夢と希望の 与謝野町を つくる会

(山添 藤 真 後 援 会)

〒629-2263

京都府与謝郡与謝野町字弓木493番地

TEL : 0772-46-2031 (携帯 080-2077-4591)

FAX : 0772-46-4394

EMAIL : toma.yamazoe@gmail.com

www.yamazoetoma.com

未来への展望

A Vision for the Future

山添藤真

TOMA YAMAZOE

山添藤真 活動レポート 2026 / 2026.1 月発行

討議資料

目次

- 02 ご挨拶
- 03 実績
- 04 未来への約束
- 05 基本政策
- 05 <安心安全>
- 09 <活力向上>
- 15 <住民参画>
- 19 データで見る与謝野町
- 21 与謝野町政の歩み
- 23 街頭「町政報告会」の主な日程

ご挨拶

一小さくとも誇り高いまちをめざして一

与謝野町の住民の皆様の温かいご支援を受け、町政の舵取り役を担ってから12年の歳月が過ぎようとしています。この間、町民憲章でうたわれているまちの将来像を実現するために「みんなの知恵と技術で、新たな価値を生み出すまちづくり」を推進してまいりました。

新型コロナウイルス感染症の影響を強く受ける中で、挑戦した3期目の町長選挙では、7の基本政策及び36の施策を訴えました。最重要課題として位置づけた学校給食センターの建替事業や野田川地域の認定こども園整備事業、京都府立看護学校の建替事業も順調に工事が進んでいます。その他の公約においても、ほとんどの施策が実行済み又は関係機関と調整中となっております。さらには、住民の皆様の平均所得も平成25年度と令和6年度を比較すると約20％上昇いたしました。今後においても、地域内外から複数の大規模な投資が予定されていることから、さらなる経済的な成長を見込める段階となりました。これは、住民の皆様のご努力と町政の連携が生んだ成果だと言えます。

私たちは百年に一度と言われた公衆衛生上の危機を乗り越え、本格的なポストコロナ社会の創造期を迎えています。先人から受け継ぎ、住民の皆様とともに進めてきたまちづくりをさらに発展させるためには、地域の魅力を磨き続けるとともに、私たち一人ひとりに宿る誇りを次世代に伝えていくことが大切です。このたび、「小さくとも誇り高いまち」を実現するために、安心安全・活力向上・住民参画を理念に据え、8の基本政策及び50の施策を「未来への展望」として取りまとめました。

私はこの「未来への展望」を実行に移すことで、住民の皆様の生活と営業を守ると同時に、この美しいまちの新時代を創り、誇りとともに次世代に継承することができると確信しています。住民の皆様のお力を与謝野町の発展のためにお貸しいたしますよう、心からお願い申し上げます。

また、過去4年間の実績や残る課題等の認識については、令和8年の2月及び3月の休日と平日の夕刻以降に町内100カ所の街頭にて「町政対話会」を開催させていただき、住民の皆様に直接訴えてまいります。お騒がせいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年1月吉日
与謝野町長 山添藤真

実績

令和4年4月に執行された与謝野町長選挙において、住民の皆様には選挙公約集「未来への展望」をお示しいたしました。7の基本政策及び36の施策を取りまとめました。なかでも、住民の皆様の暮らしを支えるために必要不可欠な「学校給食センターの建替事業・野田川地域の認定こども園整備事業・京都府立看護学校の建替事業」を最重要課題として位置付けました。この3事業の進捗をご報告するとともに、住民の皆様の平均所得の推移、成功した企業誘致の事例をご紹介します。その他の公約もほとんどが実行済み及び関係機関と調整中となっております。

■ 学校給食センター建替事業

旧岩屋小学校を解体した用地を活かして、施設整備の真っ最中です。令和8年度中に完成予定。

■ 野田川地域の認定こども園整備事業

石川保育所周辺を計画地として、地元産木材を活用して施設整備を進めています。令和9年度中に完成予定。

■ 京都府立看護学校の建替事業

現京都府立看護学校にほど近い用地で建築工事が進んでいます。令和8年度中に学生寮と校舎の完成が予定されています。
1学年40人定員から60人定員に増員となります。

■ 成功した企業誘致事例

桑飼地域に大規模な養蚕施設を建設する計画が進んでいます。

■ 平均所得の推移

(H25年度-R6年度の上昇率は全国トップレベル)
過去12年間で住民一人あたりの平均所得が大幅に増加しました。

■ 107億円の借金返済

就任前年度の全会計の町債は326.7億円でしたが、令和6年度決算では219.3億円となりました。
将来世代への負担を大幅に抑制しつつ、必要な施設整備を実現しています。



未来への約束

実績を土台に、さらなる高みへ 山添藤真が挑む「3つの最重要プロジェクト」

これまでの12年間で築いた国・府・民間、そして住民の皆様との信頼関係を最大限に活かし、与謝野町の未来を決定づける3つの事業を最優先プロジェクトと位置づけます。

1. 京都府立医科大学附属北部医療センターの機能充実と建替推進

「24時間365日。誰もが安心して暮らせる医療の砦を」

京都府北部地域の中核的な医療拠点であるセンターの老朽化対策と機能充実、最新設備を備えた新病院への建替を、関係者の皆様とともに力強く進めます。併せて、地域医療を担う医師・看護師・医療技術者の確保を継続し、高度な医療を身近に受けられる安心を守り抜きます。

2. KYOTO SILK HUB(京都シルクハブ)の誘致・産業化

「世界を魅了するシルクの聖地へ。みんなで育んだ伝統を次世代へ」

民間企業による養蚕から製糸までを一貫して行う構想「KYOTO SILK HUB(京都シルクハブ)」を町に根付かせ、新たな投資と雇用を創出します。伝統ある丹後ちりめんを「世界最先端の地場産業」への進化させ、地域経済のさらなる活性化を実現します。

3. 住民サービスの拠点「総合庁舎」建設計画の推進

「もっと便利に。共創と防災の拠点づくり」

第3次与謝野町総合計画の議論とあわせ、行政サービス及び総合庁舎建設のあり方の議論を深めます。住民の皆様が「一つの窓口」でスムーズに手続きを終えられるような利便性の向上を第一目的に置き、多様な住民活動が生まれ、災害時には司令塔となるような「まちの顔」を作り上げます。合併以来続く重要課題であるため、住民の皆様のご理解とご協力が必要不可欠です。どうかお力をお貸し下さい。

基本政策

小さくとも誇り高いまちを実現するためには、住民・事業者・議会・国府等の関係機関と連携を図りながら、粘り強く各種政策を推進していかなければなりません。くらしの土台を守る「安心安全」、新時代の経済と教育を創る「活力向上」、持続可能な未来をともに創る「住民参画」を理念にすえながら、変化の激しい時代のまちづくりを前に進めてまいります。

安心安全①

生活と営業を徹底的に守り、あなたのくらしの土台を守ります

物価高から生活と営業を守る

国際情勢の不安定化に端を発した国内の物価高。ここ3年ほどは食料品やエネルギー価格を中心に高止まりしており、住民の皆様の生活や営業に大きな影響を及ぼしています。政府の重点支援地方交付金を活用して、行き届いた幅広い支援策を講じます。

与謝野・生活応援パッケージの実施

住民の皆様一人あたり1万円の商品券を令和8年3月末までに配布し、身近な地域の商店等でご活用いただけるようにいたします。また、生活の基盤となる水道料金の基本料金を減免します(令和8年1月から3月まで)。

子育て世帯への固定費を削減

物価高の影響を受けやすい子育て世帯に子ども一人あたり1.5万円の商品券を追加配布するとともに、政府と連携して子ども一人あたり2万円の現金給付を速やかに行います。また、令和8年度から小学生の給食費を無償化いたします。

高齢者・障がいのある皆様の安心を守る

物価高の影響を受けやすい高齢者・障がいのある皆様に対しても追加的支援を行います。65歳以上の住民の皆様一人あたり5千円の商品券を追加配布するとともに、特殊詐欺の被害者とならないよう、宮津警察署と連携して国際電話利用休止キャンペーン等の取り組みを強化します。また、障がいのある皆様の食を支えておられる福祉関連事業所に食料品価格高騰対策として財政支援を行います。

中小企業・小規模事業者に対するエネルギー価格高騰対策を実行

物価が高止まりとなる中、町内の中小企業・小規模事業者も大きな影響を受けています。固定費の上昇に対して、財政的な支援策を緊急的に講じます。

全世代の安心安全を守る

住民の皆様が安心して地域社会で生活を送っていただくためには、ライフステージに応じた頼れる充実した社会保障制度と災害や感染症に強いまちづくりの推進が極めて重要です。また、個人が真に尊重され、お互いを思いやる誰にでもやさしいまちづくりをめざします。

子ども・子育て環境の充実

「子育てするなら与謝野町」のまちづくりを推進するためには、妊娠期から子育て期に至るまで切れ目のない支援が必要不可欠です。なかでも、子どもたちが安全な環境下での遊びを通して感性を育むためには野田川地域の幼保連携型認定こども園の整備は必要不可欠です。旧石川保育所跡地周辺で地域産の木材を活用した新園舎の令和9年度中の完成をめざします。また、子ども一人ひとりの個性を支える環境をつくるため、関係機関と連携して療育体制の充実を図り、医療的ケア児が利用できる放課後デイサービスを開設いたします。旧岩屋小学校跡地を活用して建設中の学校給食センターは令和8年度中の完成を予定しており、より一層安心安全で美味しい給食を子どもたちに届けます。さらに、子育て支援医療費や学校給食費の段階的無償化等の経済的な負担を軽減します。

社会福祉の強化

民間事業者との連携のもと、高齢者福祉・障がい者福祉の充実を図ります。高齢者福祉施設やグループホーム等の施設整備、人材育成・確保支援・就労支援等、これまで実行してきた施策を基本としつつ、さらなる充実をめざします。高齢者福祉分野では、認知症になっても安心して地域社会で生活できるよう、予防・共生の観点から各種事業に取り組みます。加えて、関係団体と連携して見守りカメラを設置して行方不明者対策に活用します。障がい者福祉分野では、障がいのある皆様が生きがいをもち生活することができるよう、就労支援を強化するとともに賃金アップをめざします。そして、親亡き後の不安を軽減するための対策を強化します。

充実した地域医療体制の確立

令和6年4月に京都府立医科大学附属北部医療センターに北部キャンパスが創設され、地域医学コースが開校となりました。関係機関と連携を図り、医療と教育の充実をめざすとともに府立医科大学附属北部医療センターの建替計画を推進します。また、与謝医師会と連携して在宅診療やご自宅での看取り体制の充実を図ります。国民健康保険税率や税額の負担を抑制するために、政府等への財政支援の拡充を強く求めます。

孤独孤立対策の抜本的拡充

地域社会に望まない孤独孤立を発生させないために関係機関と連携し対策を強化します。とくに、不登校・引きこもり等の状態となっている子どもやご家庭に伴走し、社会とのつながりを確保します。地域の団体と連携を図り、地域でのふれあいサロンや居場所づくりを推進します。

減災防災対策の強化

台風や集中豪雨等による風水害、地震による家屋倒壊や火災、原子力災害等の事態に備えて、避難所の環境整備や備蓄の充実、治山治水整備事業や河川の浚渫・改修、橋梁や住宅等の耐震化に取り組みます。また、有事の際に迅速に対応するために、町消防団・宮津与謝消防組合・警察・自衛隊等の関係機関との協力体制を強化し、実効性のある危機管理体制をつくりあげます。総合的な減災防災対策を行うことにより、すべての住民の皆様の生命と財産及び身体を守り抜きます。

生活支援の強化

新型コロナウイルス感染症の影響は、社会的に厳しい立場に置かれている皆様に及んでいます。子どもの貧困対策、DV対策、ひとり親家庭に対する対策、独居の高齢者対策、高齢者見守りネットワークの充実、引きこもり者に対する対策、特殊詐欺等の犯罪対策、自殺予防対策、児童生徒の見守り対策、大型ゴミの除去や雪下ろしが困難なご家庭への支援等に取り組みます。既存の体制や制度を検証により効果的な支援体制を整えます。

危険空き家対策の強化

令和4年度の空き家実態調査において、町内で721軒の空き家を確認いたしました。周辺環境に悪影響を与えている危険空き家等の対策を強化します。所有者に適切な管理を促すとともに危険空き家の解体費用の一部を補助する制度を適切に運用いたします。

責任ある行財政運営を守る

住民の皆様の生活を守り、将来にわたってすべての世代が安心して暮らし続けるためには 責任ある行財政運営を行わなければなりません。この思いから、将来世代に負担を残すことがないように役割を終えた公共施設の統廃合、上下水道料金の引き上げ等に取り組みました。住民の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。地域社会や時代の変化をとらえて、持続可能な行財政運営を行います。

持続可能な財政運営

行財政改革大綱と財政計画に基づく取り組みを進め、持続可能な財政運営を行います。令和6年度決算においては、黒字決算となる他、地方自治体の財政状況を示す「経常収支比率・財政力指数・実質公債費比率・将来負担比率」も大幅な改善となりました。引き続き、将来をみすえた財政運営を行います。

事務事業評価に基づく PDCA サイクルの確立

より良く事業を実施するためには多角的な視点によって事務事業の評価を行う必要があります。評価をふまえて、より効果的・効率的な事業の実施につなげていきます。

ふるさと納税額 10 億円への挑戦

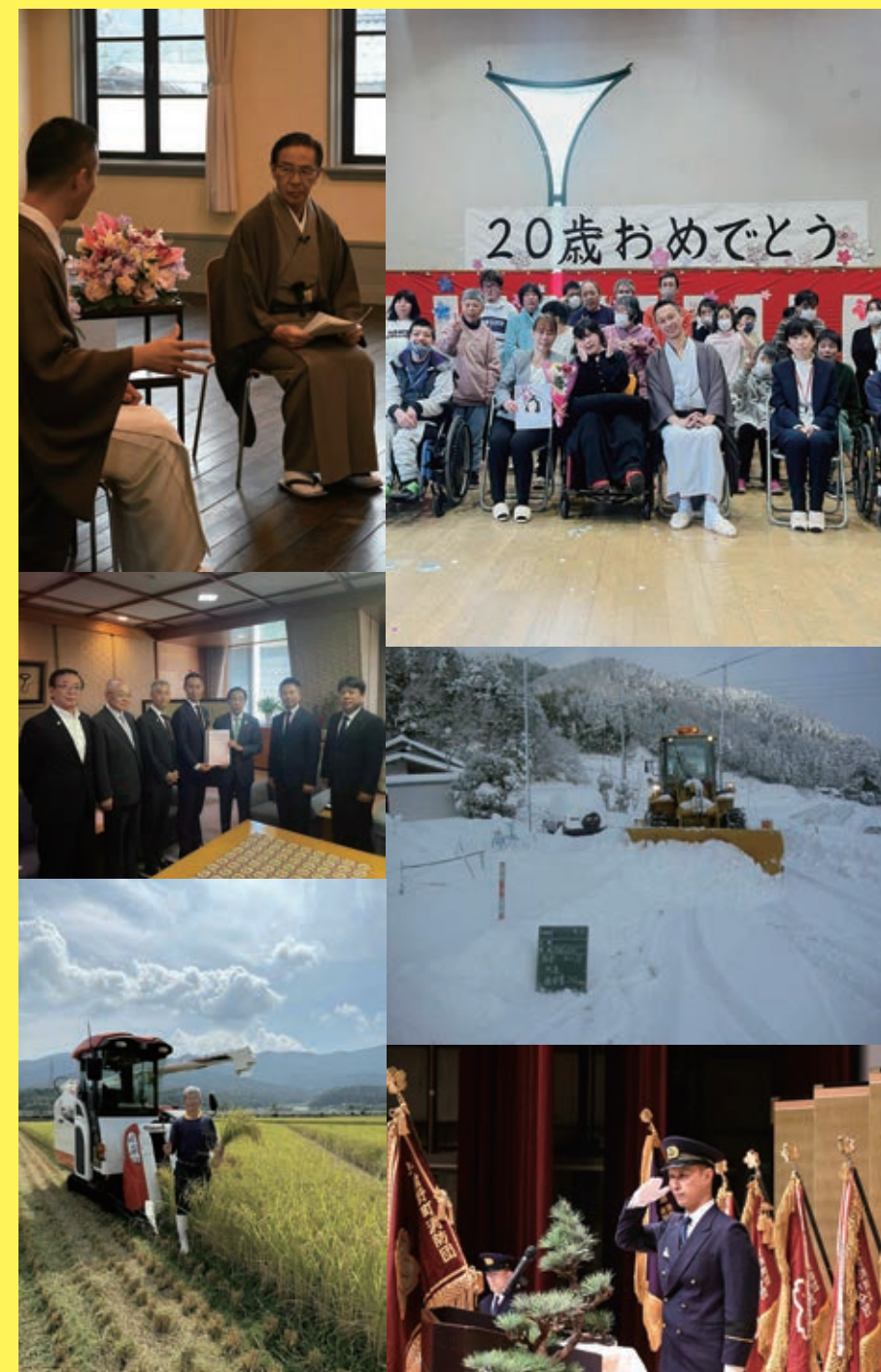
令和7年度のふるさと納税額は目標額 1 億円を達成いたしました。事業者の皆様のご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。お誂えの着物やタキシード等のオーダーメイド返礼品や京のまめっこブランドの美味しい農産品等の高額返礼品の開発、体験型返礼品の拡充、企業版ふるさと納税の積極的な活用によって寄付額 10 億円をめざします。

公共施設の最適化の促進

平成 27 年度に公共施設白書を策定し、公共施設等総合管理計画及び実施計画に基づき各施設の適正管理に努めてきました。令和6年度末までに全 166 施設のうち 46 施設（改修 6・閉鎖 1・統合 6・廃止 27・解体 4・新設 2）で取り組みを進めました。これにより、将来負担の軽減や機能の高度化を実現しています。次期 4 年間においても、住民の皆様との対話を通して、野田川地域での総合庁舎建設計画等の議論を深めてまいります。また、指定管理者制度の運用や公有財産の有効活用を通して、公共施設の最適化を進めます。

国・京都府との連携を強化

小規模な自治体である本町は、財政基盤の強化と広域的な課題の解決をめざすために国や京都府との連携は極めて重要です。老朽化した道路や橋梁の修繕、公共交通や医療体制の拡充等を効率良く実行していくために、行政間の強い信頼を最大限活用いたします。



活力向上②

新時代の経済と教育を創る

経済成長のエンジンを創る

地域の中小企業者・小規模事業者の皆様が積極的に経済活動を展開していただくことが地域社会の発展につながります。地域内経済循環と地域外からの財の獲得の両立を図ることによって経済成長のエンジンを創ります。

中小企業・小規模事業者支援

経済情勢が激しく変化する時代において、地域内の中小企業者と小規模事業者の皆様を支えていくためには徹底して寄り添うことが重要です。産業振興に係る支援制度を充実させ伴走支援を継続するとともに、中小事業者のAI・デジタル化やSDGsに基づく取り組みを積極的に支援します。

地場産業支援

地場産業である織物業と農業の持続的な発展を実現します。世界最高の織物産地を実現するために織機導入等の生産基盤支援を通して事業者のものづくり環境を整備するとともに国内外での販路拡大事業を支援します。また、織物職人をより積極的に育成するために織物技能訓練センターを熟練の職人、若手デザイナーやクリエーターが集う「よさのテキスタイル・ラボ（仮称）へ進化させます。高い評価を得ている環境保全型農業を強化するために、有機質肥料「京の豆っこ肥料」の増産と改良及び新たな肥料づくりに挑戦します。米や農作物の高付加価値化に取り組み、ホップや食用桜等の六次産業化・スマート農業・農福連携・農業体験・食文化の継承の積極的な事業推進に取り組みます。

地域循環型経済の促進

地域経済循環分析結果に基づく施策を実行に移し、経済活力が力強く地域内循環する状態をつくります。関係団体と連携し実施してきた商品券配布事業や住宅新築改修補助制度のように地域内で高い経済波及効果が期待できる事業を実施します。

企業誘致の促進

地元産業や企業との相乗効果を期待できる企業誘致を進めます。令和7年末には、京都市内に本社を置く織物事業者が町内で桑園・養蚕・製糸を行う構想「KYOTO SILK HUB」を公表しました。すでに事業着手されていることから、地域に根差す取り組みとなるように国・京都府とともに伴走支援いたします。また、別民間事業者によって自然景観に合うホテル建設計画もあることから、次期4年間で地域内への投資がより一層進む見込みです。積極的な企業誘致を促進し、地域での雇用を作り、地域内企業との協働を支援します。

人材確保・育成支援の強化

町内事業者における人材不足は深刻化しています。各事業所が実施されるリクルート事業や育成事業に積極的な支援を行います。また、後継ぎ、事業承継、起業支援をめざす皆様に対してオーダーメイドの伴走支援を行います。各産業分野で取り組まれている技能実習生受け入れについては、事業者への家賃補助等の取り組みを通して支援いたします。

自分らしい働き方応援宣言

男女問わず子育てや介護と両立できる柔軟な職場づくりを強力に後押しします。テレワーク環境の整備、女性の多様な働き方の応援、学び直し支援を推進し、自分らしく働き輝き続けられる地域経済の形を実現します。

多様な交流と深い共感を創る

ポストコロナ社会となり、人と人との交流が活性化しています。大交流の時代の中、多様な交流を促進することはもちろん、深い共感を軸とした持続的なつながりを創ります。

Uターン施策の強化

地域で育ち地域外で暮らす若年世代の里帰りをUターン施策として実施します。対象となる若年世代に地域情報を的確に発信し続ける仕組みをつくるとともに、「おかえりwith謝野・奨学金サポート制度」を創設し、返済支援及び町内企業への就職と連動させた施策を展開します。

関係・共感人口の拡大

国が進める「ふるさと住民登録制度」と連動して、積極的に関係人口の創出事業に取り組みます。また、関係団体と連携し、織物・農業等の体験コンテンツを充実させ、深い共感でつながるコアなよさのファンを創出します。

移住定住の促進

よさの移住・定住サポート窓口を設置し、移住定住希望者に寄り添いながら丁寧な対応を心がけています。また、子育て世帯移住定住促進事業補助金や結婚新生活支援事業補助金等の支援制度も充実していることから、近年、移住定住者が急増しています（令和6年度は23世帯・51名）。引き続き、住まい・仕事・子育て世代への手厚いサポートを軸に支援制度の充実を図ります。

観光産業の強化

with謝野ならではの体験型観光を推進するためには、地域住民の皆様に親しまれる場所づくりや地域の魅力が集う各拠点施設の充実が必要不可欠です。地域住民主体で地域づくりが進んでいるwith謝野駅周辺は駅と周辺区域のリニューアル工事を推進します。重要伝統的建造物群保存地区に指定されているちりめん街道においては古民家を活用した宿泊機能の充実を図ります。日本三景を望む阿蘇シーサイドパークでは、天橋立を望む最高の立地を活かし、官民連携によるオーシャンビューカフェや滞在型拠点の誘致を行い「阿蘇シーサイドパーク・リブランド事業」を推進します。

国際交流の充実

令和5年の秋に締結した英国ウェールズ・アベリスツイス市との友好協定に基づき、歴史・文化・教育における交流を深めます。高校生の相互交流事業の継続することによって相互理解と平和教育のさらなる推進に努めます。また、外国青年招致事業を通して、町内教育機関における国際理解と英語教育を推進するとともに、住民と地域内で暮らす外国籍の皆様との交流を促進します。

地域の魅力を再発見

地域の歴史を掘り下げ、広く共有する機会をつくります。昨年11月に発行された和田竜さんの戦国時代の歴史小説「最後の一色」の主たる舞台はwith謝野町です。この小説の映画化を促進することによって、地域の魅力を発信します。また、with謝野村、with謝野鉄幹・晶子夫妻、細井和喜蔵等のゆかりある文化人の功績を広く周知します。

市町村・官民学交流の強化

単一の基礎自治体では維持できない公共サービスの継続や都市部への販路開拓とブランド価値の向上、行政にはないICTの専門知識の導入、地域産木材の利用促進等、他市町村や民間企業との連携を強化してきました。引き続き、交流を強化し「強みを持ち寄り、弱みを補い合う」ネットワークを構築していきます。

与謝野力と可能性を創る

本町の教育大綱の理念「世界中の国や地域で自らの責務を果たすことができ、自信と思いやりにあふれ、創造的に未来を開拓する精神を持つ人間を育む」に基づき、学校教育と社会教育の推進を図ります。

個性に向き合う学校教育の充実

児童生徒の個性に真正面から向き合う学校教育。児童生徒・学校の先生方が主役となる授業・学校づくりを徹底的に応援します。この間、進めてきたふるさと学習・演劇的手法を通したコミュニケーション教育の実践等の取り組みを発展させます。熱中症対策として遠距離を徒歩通学する児童生徒のバス下校制の導入、全小学校のプール授業をクアハウス岩滝での実施に切り替えを図る等、引き続き学校の環境改善に努めます。

よさの未来学の推進

織物・農業・古墳・街並み等、与謝野町の多角的な魅力を体系的に学ぶ「よさの未来学(郷土学習)」を充実させます。自らの故郷を論理的に、情熱を持って語れる子どもたちを育成し、郷土への深い誇りを醸成します。

夢と健康を育むスポーツの推進

運動を通して健やかな体と心を育むため、子どもたちが多様な競技に挑戦できる環境を整えます。学校・地域団体・民間企業と連携を図り、学校のクラブ活動や地域青少年スポーツ団体の活動支援を強化します。

居場所づくりの促進

本町では、学校に行きたいけれども行けない児童生徒を通所指導・訪問支援等で支える拠点「教育支援センター・トライアングル」を開設しています。より伸びやかに活動ができるように「拠点」を充実させます。また、児童生徒の放課後活動を充実するために老朽化していた三河内地区と石川地区の学童施設を新築する他、自治区や地域団体が取り組む子どもたちのための居場所づくり事業「キッズステーション」をより積極的に促進します。

学校施設の適正規模適正配置

児童生徒が集団の中で、多様な考え方にふれ、協働し合い、育ち合う環境を形成することが思考力・表現力・判断力・思いやる力等の獲得につながります。この教育的視点を中心として、学校施設の適正規模適正配置の実現に取り組みます。

京都府立宮津天橋高校・与謝の海支援学校の充実

与謝野町で育つ児童生徒が自宅からほど近い学校で充実した高等教育を受けることができるよう、立地する基礎自治体としての責務を果たします。また、2つの学校施設が再編・建替の対象となるようであれば、町内での立地を実現できるよう京都府教育委員会に積極的な提案を行います。

生涯学習の充実

生涯を通して学び続けることができるよう、住民同士が学びを深められる場としての公民館機能の充実を図ります。地域コミュニティの核である地区公民館で住民活動を展開し続けられるよう、関係機関との連携を強化します。

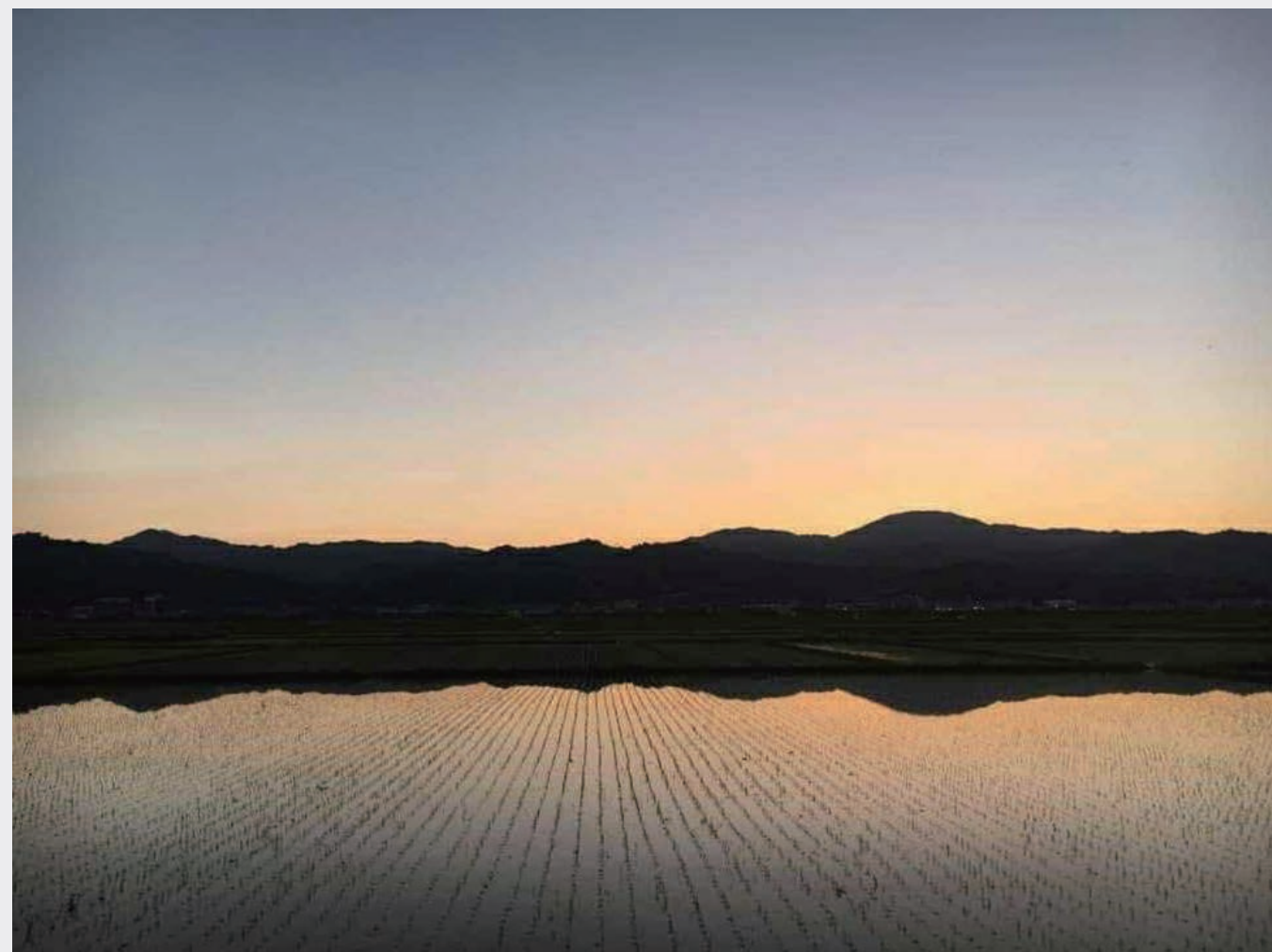
文化芸術振興の徹底した強化

住民の皆様の文化芸術活動を支えるとともに、地域で活躍中或いはゆかりのある芸術家との共創を促進することによって、文化と芸術に親しみやすい地域社会づくりを促進します。また、地域の文化財や史跡の保全と活用を図り、観光や教育の視点を取り入れた事業を展開します。

和文化の継承と発展

与謝野町には、着物・俳句・茶の湯・華道・和食・弓道・書道・能楽・祭等の和の文化が息づいています。地域社会が育んできた伝統を学び、継承していくための事業を実行します。





住民参画③



持続可能な未来をともに創る

持続可能な社会環境を創る

将来にわたって、子どもからお年寄りまでのすべての世代が幸せに暮らし続けることができるよう、現在を生きる私たちが未来を見すえて責任ある取り組みを進めていかなければなりません。積極的に未来志向の社会環境を整えます。

社会基盤整備の促進

住民の皆様が快適な生活を送るためには、地域社会の社会基盤を整えることが重要です。自治区・近隣市町・京都府・国との連携を図り、美しい公共空間、生活道路、サイクリングロード、主要地方道、河川、橋梁等の整備を積極的に促進します。野田川水系の河川改修と浚渫、奥山川流域浸水対策工事、宮津養父線岩屋峠の改修、網野岩滝線男山工区の改修を重点課題として位置づけて取り組みます。

地域公共交通体系の最適化

住民の皆様の生活を支える上で極めて重要なのが移動手段の確保です。本町では、鉄道・バス・タクシー等の選択肢の他に、関係者の皆様のご協力を得て、令和6年10月から野田川地域及び加悦地域において「よさの乗合交通」の本格運行を開始しました。現体系を継続しつつ、より利便性を向上させるために改善を重ねてまいります。また、社会福祉協議会に担っていただいている福祉有償運送事業やNPOが主体的に取り組む移動手段の確保事業の支援を強化します。さらに、高齢者の皆様が免許を返納された後も快適に移動できるように電動三輪車や電動カートへの補助制度を創設します。

自然環境・景観を育む

大江山連峰・野田川・阿蘇海等の美しい自然環境と景観を保全することは、豊かな生活を支えるとともに産業の発展に大きく寄与しています。自伐型林業、宮津与謝クリーンセンターの安定的な稼働、ごみの減量化、不法投棄の抑制、リユースとリサイクル、生物多様性確保等の事業を積極的に進めます。

次世代へつなぐ「平和の記憶」

地域に点在する慰霊碑等は、先人の歩みと平和への祈りの象徴です。地域の大切な歴史遺産として守り、語り継ぐため、地域ぐるみで維持管理の仕組みづくりを行います。慰霊碑等を美しく守り、その由来を学ぶ活動を通して、郷土への誇りと平和を愛する心を次世代へ確実に継承します。

地球温暖化対策の強化

2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするゼロカーボンシティをめざし、農業政策等と結びついた独自の対策を進めています。近年では、ご家庭の家電を省エネ家電に買い替えることを後押しする「よさの住環境改善省エネ家電買替応援事業」を行い、家庭での省エネ対策を進めてきました。これらの経過を踏まえ、行政・家庭・産業の側面からさらなる取り組みを進めます。

多様な主体による地域づくりの促進

地域の課題解決や魅力づくりを進めていくためには、多様な主体が連携し合うことが重要です。自治区・NPO・任意団体等の皆様の活動を力強く支援しつつ、住民参画をより一層促進するために、「みんなで創る予算制度（参加型予算）」を導入します。

信頼される町役場を創る

行政だけでまちづくりを進める時代は過ぎ去りました。多様な主体との連携や共創によって住民福祉の向上に資する取り組みを進めていかなければなりません。そのような中では、住民の皆様から役場が信頼を受けることが重要です。これまで以上に住民の皆様一人ひとりに寄り添うことによって、行政推進の基盤である「信頼」を構築します。

町長の政治倫理を徹底

三期目の任期の開始を受けて制定した与謝野町長等政治倫理条例を順守します。町政が住民の皆様の厳粛な信託の上に成立するという民主主義の原則に従い、自己の地位による影響力を行使することがないように、これまで以上に厳しく律します。

柔軟な組織体制の構築

複雑・多様化する住民ニーズに対応するためには、組織内の連携を深め協働して課題解決をめざす必要があります。柔軟にプロジェクトチームを編成し、タイムリーでスマートな事業執行につなげます。

ワンストップ窓口の拡大

住民の皆様に寄り添い、一つの窓口ですべての相談や手続きを完結できる仕組みを段階的に整えていきます。たらい回しと言われるストレスを解消し、町役場の信頼性を高め、住民の皆様の満足度の向上をめざします。

積極的な人事交流の促進

多様な価値観から学び、高度なスキルを習得していくためには、積極的な人事交流の促進と民間副業人材の登用等が有効です。今後におきましても、国・京都府・他市町との人事交流や民間人材等の登用を行います。

AI活用・デジタル化の促進

人口減少化で行政サービスを維持・向上させるための重要な取り組みに位置づけます。デジタル化の推進によってスマートフォンで完結する役場づくりを進めます。また、AI活用は職員不足の解消と人にしかできない仕事に集中できる環境をつくります。これらによって、住民の皆様との接点や時間をより一層生み出し、地域から信頼される町役場を創ります。

広報広聴・まちの魅力発信事業のさらなる推進

住民の皆様と双方向のコミュニケーションを心がけます。ホームページ・SNS・有線テレビ・広報誌等の機能強化を図るとともに、住民の皆様や共感を寄せてくださる皆様自身が町の広報担当者のようにまちの自慢や情報発信していただける仕組みを強化します。





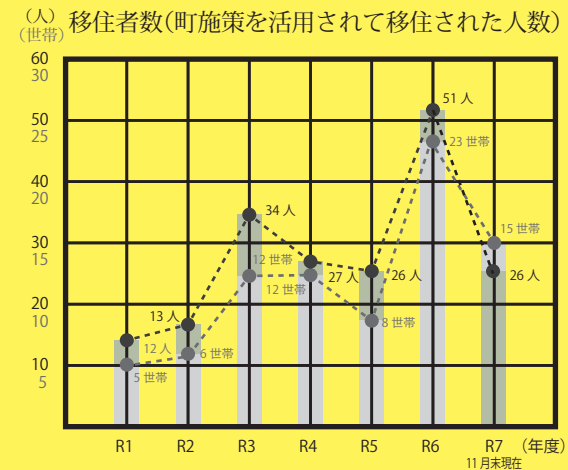
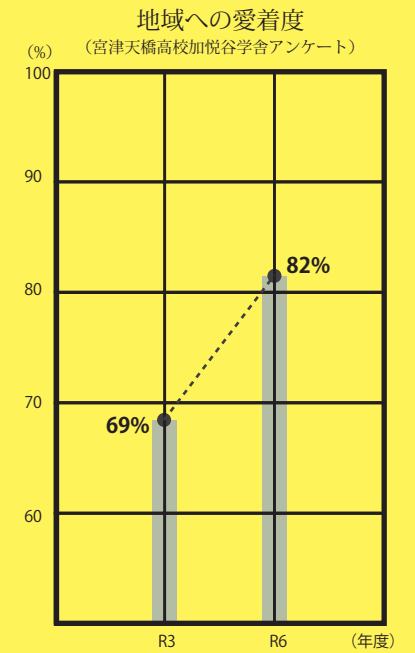
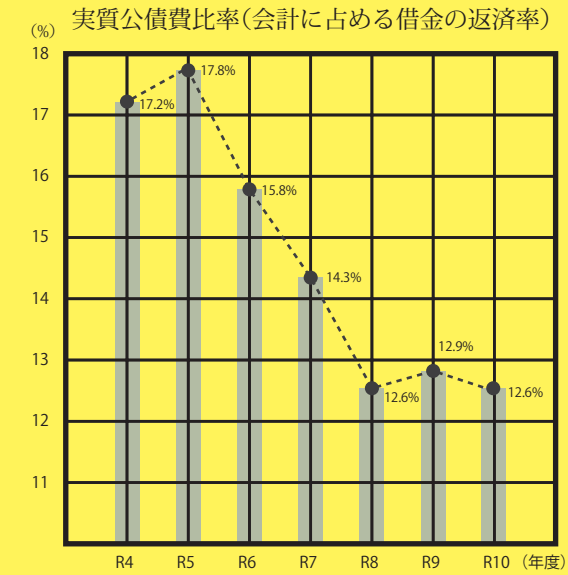
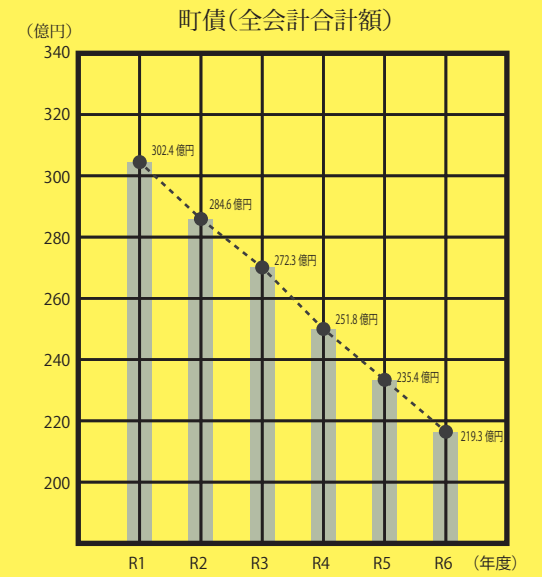
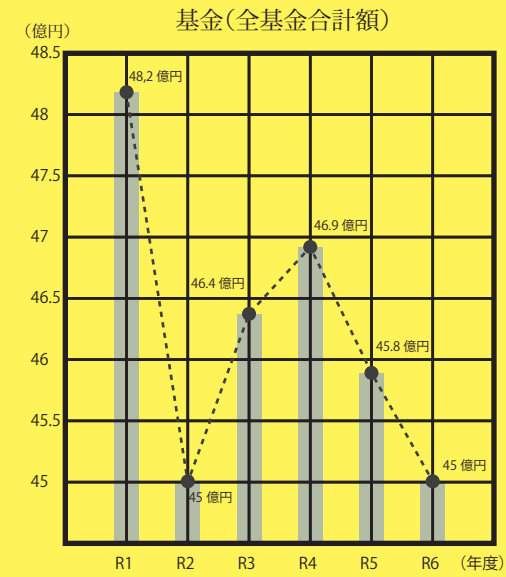
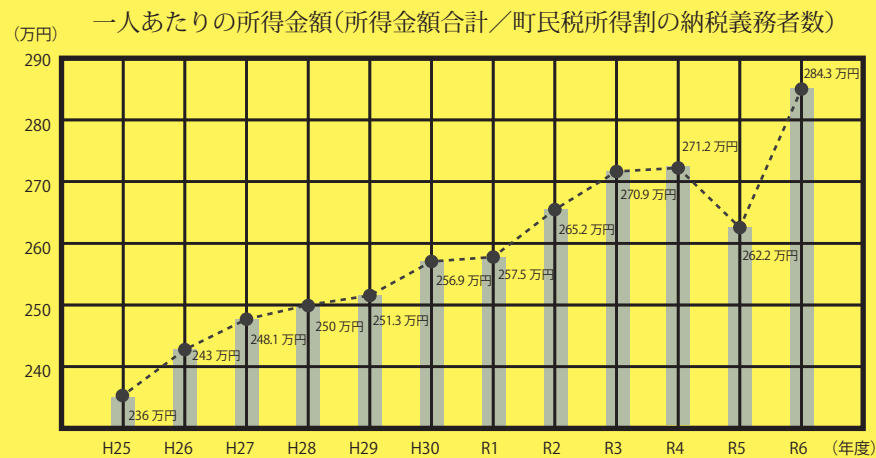
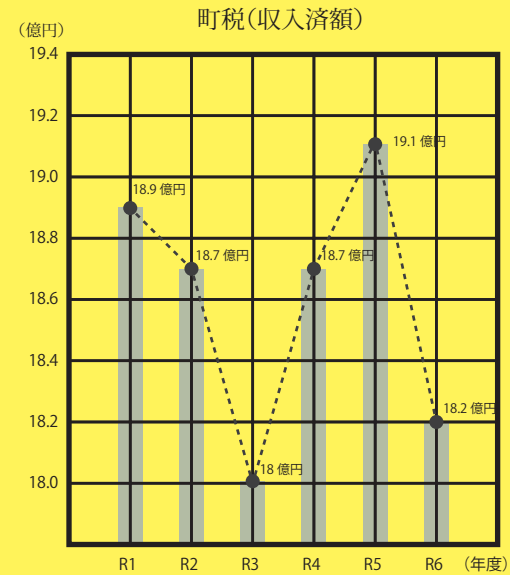
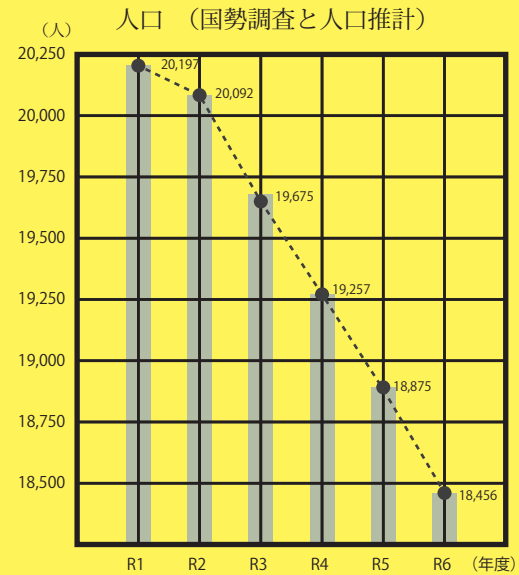
データで見る与謝野町

各種統計や各年度決算から、与謝野町の変化を簡単に読み解きます。

人口については、高校卒業を契機とする若者世代の流出や出生数が徐々に減少していること等の理由から減少が進んでいます。一方で、近年は町の施策を通じた移住定住者数が大きく増加しています。

町税収入については、国の税制改正等の影響もありますが、毎年度 18 億円から 19 億円で推移しています。住民一人あたりの平均所得は過去 12 年間で約 50 万円増加しており、全国的にも高い上昇率です。物価高の影響が続くことが予測される中、今後は実感を伴う成長につなげていく必要があります。

まちの借金である「町債」は令和 6 年度決算においても合併後過去最小となりました。就任時から約 107 億円を減少させています。また、基金についても、約 45 億円を確保しております。平成 18 年度から平成 23 年度に集中して進めた下水道整備工事に伴う借金の返済が大きな要因となり、高止まりを続けていた実質公債費比率は令和 6 年度決算から減少トレンドに入りました。今後、必要な施設整備を進めても令和 10 年度には 13% 以下になると予測しています。その他の財政指標の数値ですが、前年度より大きく改善しています。また、地域住民の皆様のご協力をいただきながら進めている宮津天橋高校加悦谷学舎の魅力化事業の成果として、高校生たちの地域への愛着度が向上しています。とても嬉しく思います。



[出典]
与謝野町統計書
宮津天橋高校加悦谷学舎アンケート
与謝野町議会提出資料

2020 ▶▶▶ 2025

2020	
2	新型コロナウイルス感染症対策会議（第 1 回開催）
3	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3 月 3 日から 24 日の期間、小中学校を臨時休校 旧加悦町役場庁舎保存活用改修工事完成 岩滝クアハウス改修工事完成
4	新生加悦小学校開校 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、町内公共施設を休館（4 月 13 日から 5 月 31 日） 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小・中学校を臨時休業（4 月 22 日から 5 月 20 日）
7	与謝野町移住定住アンバサダーとして、4 名・6 社を初認定 宮津与謝クリーンセンター竣工式開催
10	町営バス路線に「岩屋線」新設
11	京の豆っこ肥料を軸とする与謝野町の自然循環農業の取り組みが環境省主催 「グッドライフアワード」でエシカル賞を受賞
12	トヨタ自動車株式会社アグリバイオ事業部と「農業の収益力向上と人材育成に関する協定」を締結
2021	
1	かや山の家改修工事（ジビエ加工施設含む）完成
3	よさのこどもみらい大学キックオフディスカッションの開催 第 2 次与謝野町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定
5	新型コロナウイルスワクチン接種事業開始
10	気候非常事態宣言（宮津市との共同宣言）
11	ウェールズ政府日本代表・ウォーカー氏が来町
12	木徳神糧株式会社・きもの 100 万人プロジェクトと連携協定を締結 つばきこども園開園（新築開園）
2022	
3	加悦谷高等学校で最後の卒業式、宮津天橋高校への継承式が開催され 74 年の歴史に幕を下す 温江地区公民館が完成 譲渡された国重要文化財 123 号蒸気機関車等 3 車両の保管庫落成式
4	山添町政三期目が始動
7	与謝野町文化財保存地域活用計画が文化庁の認定を受ける
11	府道宮津養父線岩屋峠（第一工区）が完成

2023	
5	役場機構改革
7	世界気候エネルギー首長誓約コンプライアントパッチ 2022 を受賞
9	町公式 LINE アカウント開設
10	新たな地域交通「予約型乗合交通」の実証運行開始
11	ウェールズ・アベリスツイスと友好協定を締結 三重県明和町・島根県津和野町と包括連携協定を締結
12	住民票の写し・印鑑登録証明書のコンビニ交付開始
2024	
1	旧尾藤家住宅が国指定重要文化財に指定
2	消防団第 2 分団車庫詰所が完成
3	多様な主体による協働のまちづくり推進指針を策定 城山公園テニスコート屋外照明設備改修工事が完了 大切井堰改修工事が完了 鞭谷川河川改良工事が完了
4	よさの移住・定住サポート総合窓口設置 下水道事業公営企業会計へ移行 「子どもの読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰」を受賞
6	京都ハンナリーズとスポーツ普及等に係る協定を締結
8	与謝野駅周辺まちづくり計画策定 新与謝野町学校給食センター建設のため旧岩屋小学校校舎を解体
10	よさの乗合交通本格運行開始
12	与謝野町パートナーシップ制度の導入
2025	
2	有線テレビが令和 6 年度京都府広報賞（映像の部）最高賞の知事賞を受賞
3	京都パープルサンガと地域社会におけるスポーツ普及等に係る協定を締結 山田保育所・石川保育所が閉園